時限論文カテゴリーについて

・事例研究論文（原著扱い）

方法論として事例研究を用い、UI や UX の設計上の課題を含む何らかの命題を解明し、理論的貢献あるいは実務的貢献を目指す

・事例報告（ショートノート扱い　※4 ページ以内）

将来の研究資料となりそうな萌芽的な事例、知られていない事例、特異な事例などを紹介することを目的とする

事例研究論文の査読の考え方と事例論文作成のアドバイスについて

本特集号では、「事例研究論文」および「事例報告」の 2 つの論文カテゴリーを時限的に設置します。これら事例カテゴリーは、実践的な知見を収集することにより実務的な貢献や今後の理論的研究への貢献となることを期待して設置するものです。主な対象は、企業等における実務的なノウハウを含む事例を想定しており、従来からヒューマンインタフェース学会論文誌で取り扱ってきた、新規のインタフェース設計などについては、従来通り原著論文としての投稿を推奨します。

基本的にはヒューマンインタフェース学会論文誌編集委員会の査読基準に則って審査を行いますが、これらのカテゴリーについては、有用性を重視して採録の可否を判断したいと考えています。これにより、単なる事例紹介にとどまる内容ではなく十分な信頼性を確保した質の高い論文を選定し掲載したいと考えております。

執筆者の方には、あらかじめ以下のアドバイスを確認いただくことにより、質の高い論文に仕上げていただけることを期待します。

＜査読の考え方＞

- 事例研究論文は、UI や UX のデザインに関する事例を扱った論文であり、理論的あるいは実務的な観点から、有用性が十分評価されるかどうかが評価のポイントになります。また、論文の読者が論文に記述されている内容を再現できる程度に詳細に記述されており、論文としての信頼性が十分確保されていることが要求されます。
- 査読の基準はヒューマンインタフェース学会の査読基準に則ります。

＜事例研究論文・事例研究報告の作成アドバイス＞

- 命題の設定と対応する結果の明示：
  - UI や UX のデザインに関するどのような命題を扱うのかを、明らかにしましょう。また、その命題は従来どのように認識、構成、分析、対処等されてきたかについ

て記述してください。これらについては可能な限り文献などで、客観的に説明されることが期待されます。

- 特定の組織的な課題について扱う場合は、組織的課題がUI /UXのデザインとどのような関係・影響があるか、その課題がどの程度他の組織においても当てはまる一般性を有しているのか等について、論文の読者が知見の適用の可否を判断できる程度に述べてください。
- 論文では、設定した命題に対して、対応する取組みの詳細および結果を適切に示してください。特に取組み結果やその知見（ノウハウ）などを中心に記述する論文の場合は、論文の読者が論文に記述されている内容を再現できる程度に詳細に記述されている必要があります。

- 有用性の説明：
  - 事例研究論文では、有用性を重視して採録の判断を行います。論文の結論が、UIやUXの設計上の課題を解決するのに有用なものであることがわかるように記述してください。

- 信頼性の確保：
  - 信頼性については、事例研究論文・事例報告といえども極めて重要な要件です。学術論文として十分な信頼性を確保するよう、努力してください。信頼性を高めるためには、以下のような項目を意識すると良いでしょう。

    a. 内容に致命的な誤りやあいまい性がないか

    b. 論旨の展開が明確であるか

    c. 命題の設定が明確に示され、可能な限り文献などを引用し、論文の位置付けがなされているか

    d. 設定した命題に対する結果や取組み結果および知見が明確に述べられているか

    e. 取組みの状況や条件および課題が適切に述べられており、取組みの実施方法や手法などの詳細について、読者が再現できる程度に適切に記述されているか

- 貢献の明示と限界の理解：
  - 論文において扱っている事例をベースにして理論的貢献を主張する場合には、理論の発展にどのように寄与するかを明確に述べましょう。実践的貢献を目指す場合には、実務の遂行や問題解決にいかに寄与するかを明確に述べましょう。
  - 事例研究の結果の一般化については限界があることを意識し、一般化や結論の展開を慎重に行い、誇張や行き過ぎた表現がないようにしましょう。

以上